

別表 2：投資家・金融機関等の取り組みべき事項別事例集

#	取組のカテゴリ (大)	取組のカテゴリ (小)	投資家・金融機関名	国	取組内容	リンク
1	① 投資家・金融機関等自らが自身の自然資本に関するリスクと機会を分析し適切な行動をとっているためのガバナンスの構築・組み込み	自然資本・生物多様性投資方針の策定（組織レベルでの自然資本の組み込み）	BNP Paribas	フランス	2021年に同社は自然資本と生物多様性に対する立場を表明。同社の投資活動において以下を実施し、生物多様性保護を事業の中枢に統合することを提示する。 ・顧客や投資先企業の活動による生物多様性への影響を、建設的な対話と融資・投資活動の監督によって低減 ・生物多様性保護への顧客の取組を、特定の金融商品やサービス（サステナビリティ・リンク・ローン、グリーンボンド等）を通じて積極的に支援 ・生物多様性保護を目的としたファンドへの投資方向付け グループ自身の生物多様性への直接的影響を低減	https://cdn-group.bnpparibas.com/uploads/file/biodiversity_position_2021.pdf
2	① 投資家・金融機関等自らが自身の自然資本に関するリスクと機会を分析し適切な行動をとっているためのガバナンスの構築・組み込み	自然資本・生物多様性投資方針の策定（組織レベルでの自然資本の組み込み）	Allianz	ドイツ	2023年に「Allianz Global Investors Biodiversity Policy Statement」を公表。同表明は金融機関としての生物多様性に対する姿勢と、投資運用プロセスへの生物多様性配慮の反映手法を提示。重要度の高いサステナビリティ課題を特定・監視・分析するために、テーマ別・セクター別・企業別という3つの相互に関連する視点から見解を構築・策定している。	https://www.allianzgi.com/-/media/allianzgi/globalagi/our-firm/ouresgapproach/2023/allianzgi-biodiversity-policy-statement-2023.pdf
3	① 投資家・金融機関等自らが自身の自然資本に関するリスクと機会を分析し適切な行動をとっているためのガバナンスの構築・組み込み	自然資本・生物多様性投資方針の策定（組織レベルでの自然資本の組み込み）	KLP Asset Management	ノルウェー	自然資本・気候変動リスクの財務的エクスポージャー低減を狙い、地球の有限性を前提とした社会経済の進展と自社の財務目標の両立を目指す。これを理由に、企業に対し気候・自然リスク低減を組み込んだ事業遂行を求める姿勢を公表した。	https://www.klp.no/om-klp/samfunnsansvar/vi-er-en-engasjert-og-ansvarlig-nier/klps-nierforventninger/KLP%20expectations%20on%20climate%20and%20nature%20Feb%202023.pdf
4	① 投資家・金融機関等自らが自身の自然資本に関するリスクと機会を分析し適切な行動をとっているためのガバナンスの構築・組み込み	自然資本・生物多様性投資方針の策定（組織レベルでの自然資本の組み込み）	リソナアセットマネジメント	日本	自然への依存・影響および自然関連リスク・機会を適切に管理するため、スチュワードシップ活動等を通じて投資先の行動変容を促し、その結果として実社会でのインパクト（自然への負の影響の低減）を生み出すことを目的に以下4つの区分で指標を設定。 ・対話・エンゲージメント活動の実施に係る指標 ・投資先企業の行動変容に係る指標 ・実社会でのインパクトに係る指標 ・直接操業に係る指標	https://www.resona-am.co.jp/investors/pdf/climate-nature_report2024-2025.pdf
5	① 投資家・金融機関等自らが自身の自然資本に関するリスクと機会を分析し適切な行動をとっているためのガバナンスの構築・組み込み	自然資本・生物多様性投資方針の策定（組織レベルでの自然資本の組み込み）	日本生命	日本	企業さまざまな事業や取組を自然の回復の観点で定量的に測定・評価する手法をまとめ、評価尺度として下記2つの指標を策定。 ・生態系への影響の観点から、生物が生存・成長に利用するエネルギーである「NPP」、およびその人類による利用量である「HANPP」 ・生物種への影響の観点から、「対象生物種の個体数」	https://www.nissay.co.jp/new/s/2025/pdf/20250808.pdf
6	① 投資家・金融機関等自らが自身の自然資本に関するリスクと機会を分析し適切な行動をとっているためのガバナンスの構築・組み込み	優先対応領域の特定	AXA IM	フランス	同社の投資が生物多様性に与える影響測定のため、生物多様性データ測定ツールであるCBF(Corporate Biodiversity Footprint) を活用し、ポートフォリオレベルで生物多様性に対する影響を特定。	https://www.axa.com/en/commitments/climate-and-biodiversity
7	① 投資家・金融機関等自らが自身の自然資本に関するリスクと機会を分析し適切な行動をとっているためのガバナンスの構築・組み込み	優先対応領域の特定	農林中央金庫	日本	負債側、資産側いずれも、自然への依存度が高く、気候変動による影響を含め、生態系、水、大気などの毀損は経営上の重要課題の1つとなっており、LEAPアプローチに基づいた自然関連の取組を推進。リスクの発見と診断では、ENCOREやEiSG等を活用する。	https://www.env.go.jp/content/000339443.pdf
8	② 自然資本を考慮した取組による企業価値向上に向けたエンゲージメント等	構造化されたエンゲージメントフレームワークの構築	Allianz	ドイツ	エンゲージメントフレームワークにおいて生物多様性に關する5つの優先セクターを特定し、主要KPIを策定。 ・食と農業 ・紙と森林産物 ・金属と鉱業 ・化学物質 ・ユーティリティ また、健全なガバナンス、徹底的な評価と指標、強いコミットメント、透明な開示をエンゲージメントの柱として、企業が徐々にフレームワークを導入し、生物多様性に対する行動を示すことを推奨。 意識醸成、COP15合意の生物多様性枠組みの着実な実施、開示・データの改善、そして整合性の取れた生物多様性投資機会の形成が、自然資本保全に見合う規模の資金を呼び込むうえで有効だと確信。いち早く動く投資家や企業は、生物多様性損失の回避から得られるリターンを最も享受できるという立場を表明した。	https://www.allianzgi.com/en/insights/rules-of-engagement-biodiversity
9	② 自然資本を考慮した取組による企業価値向上に向けたエンゲージメント等	構造化されたエンゲージメントフレームワークの構築	Schroders	英国	同社は2022年にSchroders Engagement Blueprintを発表。生物多様性・自然資本を、同社のアクティブ・オーナーシップにおける6つの優先テーマの一つに、生物多様性・自然資本を位置付けた。また、投資先が直面する下記4つの主要課題をテーマに、自然資本・生物多様性の観点から企業とのエンゲージメントを実施する。 ・自然関連リスクとその管理体制 ・循環経済、汚染・廃棄物の最小化 ・食料と水の持続可能性 ・森林破壊のリスク低減	https://mybrand.schroders.com/m/3222e4ed44a1f2c/original/schroders-engagement-blueprint.pdf
10	② 自然資本を考慮した取組による企業価値向上に向けたエンゲージメント等	気候変動エンゲージメントとの連携	ING	オランダ	気候変動は生物多様性損失の重要なドライバーの一つと位置づけ、既存の気候変動のエンゲージメントに自然資本への取組と接続し、気候目標と自然資本配慮を統合的にアプローチする方針を取っている。また、同社はサステナビリティ課題が事業に影響を及ぼすことを認識し、当該リスクを評価のうえ、事業関係全体にわたってリスクを軽減する対策を講じている。	https://ing.com/binaries/content/assets/documents/files/2022-climate-report.pdf
11	② 自然資本を考慮した取組による企業価値向上に向けたエンゲージメント等	エスカレーション手段の明確化	Allianz	ドイツ	同社は、PepsiCoおよびHome Depotにおける生物多様性の依存度・影響評価の実施要請に關し、株主総会で委任状を通じて議決権行使する考えを示した。同社は同時に、企業が生物多様性評価を遂行し、適切なリスク管理戦略を採用するとともに、単独の報告書あるいは既存開示の一部として、関連リスクの評価・管理の進捗を定期的に開示することを求めている。	https://www.allianzgi.com/en/press-centre/media/press-releases/20240424-resolutions-related-to-biodiversity-pepsico-home-depot-agms
12	② 自然資本を考慮した取組による企業価値向上に向けたエンゲージメント等	自然関連移行計画、シナリオ分析	リソナアセットマネジメント	日本	「自然資本に関する方針」を制定し、その中でコミットした戦略目的「昆明・モントリオール生物多様性枠組において掲げられた2050年ビジョン、2030年ミッションに賛同し、自然資本や生物多様性の損失という課題を運用を通じて解決することに貢献」を達成するための移行計画を策定している。 また、投資先企業とのエンゲージメントとして、重要セクターの所属企業を対象に自然に対するインパクトを低減する取組の積極的実施を要請しており、例えば、持続可能なパーム油の調達に関する対話・エンゲージメントにおいて、「RSPO認証パーム油の調達目標・実績の開示」「NDPEを盛り込んだパーム油調達方針の策定」等を要請している。	https://www.resona-am.co.jp/investors/pdf/climate-nature_report2024-2025.pdf
13	② 自然資本を考慮した取組による企業価値向上に向けたエンゲージメント等	自然関連移行計画、シナリオ分析	東京海上アセットマネジメント	日本	生物多様性に関する企業エンゲージメントでは、特に重要性が高いと考えられる「素材」「製造業」「サービス」「運輸」「公益セクター」の企業を対象に、TNFDへの対応状況を下記①～⑤の段階で評価している。さらに、セクターごとに要請事項を整理した上で、個別にアプローチを行っている。 ①TNFDにおける課題、取組の必要性を認識している ②事業における「自然への影響と依存」を認識、特定している ③TNFDレポートのような形式での開示範囲、スコープが決定している ④戦略的機會とリスクを認識し、自然への負（正）の影響を低減（増加）させる取組を実施し、開示している ⑤優先地域・領域を特定したエンゲージメントを含む有効性の高い戦略に取組、開示している 関係する自然資本の価値や高度な指標を測定、開示している	https://www.tokiomarineam.co.jp/company/sustainability/cf5agc000000ceb-att/sustainabilityreport2025.pdf
14	③ 自然資本への負の影響を下げ正の影響の拡大につながる企業の事業活動を支えるための投資の実行	投資判断への自然資本基準の統合	ING	オランダ	特定の生態系に直接影響を与えるプロジェクトには資金提供しないこと、自然の利益と両立しない経済活動は除外し、ポートフォリオを気候変動目標に整合させることを目指す。また、顧客の自然損失への取組を支援するため、下記3つの目標を設定している。 ・リスクと影響の管理 ・同社ポートフォリオの脱取りと顧客エンゲージメント ・社内外での自然主流化推進 自然資本に対する甚大な影響を与える企業やプロジェクトには金融サービスを提供しないことを表明。	https://ing.com/sustainability/approach/nature
15	③ 自然資本への負の影響を下げ正の影響の拡大につながる企業の事業活動を支えるための投資の実行	投資判断への自然資本基準の統合	Standard Chartered	英国	・ユネスコ世界遺産に悪影響を及ぼす事業を行う企業 ・ラムサール条約に基づく(国際的重要性湿地の生態学的特性に悪影響を与えるプロジェクト ・高保全価値、高炭素ストック森林や泥炭地の転換または劣化を起こす事業	https://www.sc.com/en/uploads/sites/66/content/dscs/nature-position-statement.pdf
16	③ 自然資本への負の影響を下げ正の影響の拡大につながる企業の事業活動を支えるための投資の実行	自然資本KPI連動型ファイナンス等の提供	みずほ銀行	日本	開発の評価基準を用い、TNFDなどの枠組み・ガイドラインを踏まえて、企業の自然資本対応と開示状況（負の影響抑制を含む）を審査。評価はS、A+、A、B、無の5段階とし、B以上の評価を得た企業に対し、定期的なモニタリングやフィードバック等を行う「Mizuho 自然資本インパクトファイナンス」を提供する。	https://www.mizuho-bank.co.jp/corporate/sustainability/natural_capital/index.html

#	取組のカテゴリ（大）	取組のカテゴリ（小）	投資家・金融機関名	国	取組内容	リンク
17	③自然資本への負の影響を下げ正の影響の拡大につながる企業の事業活動を支えるための投融資の実行	自然資本経営評価型ファイナンス等の提供	三菱UFJ銀行	日本	顧客の自然資本経営への取組を評価し、所定の基準以上のスコアを得た取引先を対象とする「自然資本経営評価型ローン」を2024年11月に提供開始。株式会社日本格付研究所による客観的評価を行い、課題等をフィードバック。加えて、利用企業は「自然資本経営評価型ローン」として对外公表が可能となる。	https://www.mufg.jp/dam/cs/report/tnfd/2025_ja.pdf
18	③自然資本への負の影響を下げ正の影響の拡大につながる企業の事業活動を支えるための投融資の実行	自然資本KPI連動型ファイナンス等の提供	三井住友信託銀行	日本	設定したKPI・目標の進捗を継続的にモニタリングし、インパクトの発現を後押しする「ネイチャー・インパクトファイナンス」を開始。サステナビリティ体制評価に加え、専門評価会社による自然に対するインパクト評価およびTNFD開示等に基づく自然資本経営評価を通じて、顧客の事業が自然に与えるインパクトを特定し、インパクト発現に向けて伴走支援する。	https://www.smtb.jp/business/pdf/
19	③自然資本への負の影響を下げ正の影響の拡大につながる企業の事業活動を支えるための投融資の実行	自然資本テーマファンドの組成	AVIVA Investors	英国	生物多様性損失の抑制に資するソリューション提供企業、または自然影響の管理に向けて事業モデルを転換する企業へグローバルに投資し、長期的な資本成長を目指す。同時に、最低限の環境基準を満たさない企業は投資対象から除外する「自然資本グローバルエクイティファンド」を提供。同ファンドは同時に、最低限の環境基準を満たさない企業を投資対象から除外する。	https://www.avivainvestors.com/en-gb/capabilities/equities/natural-capital-global-equity-fund/
20	③自然資本への負の影響を下げ正の影響の拡大につながる企業の事業活動を支えるための投融資の実行	自然資本テーマファンドの組成	Goldman Sachs	米国	投資家が生物多様性の保全と修復に投資できる初の債券ファンドの一つとして、「生物多様性債券ファンド」を設立。 収益が生物多様性関連のプロジェクトや活動に充てられる債券、および「生物多様性の保全と修復を支援する収益を持つ企業が発行する債券」への投資機会を投資家に提供する。	https://am.gs.com/en-gb/advisors/news/press-release/2025/biodiversity-bond
21	③自然資本への負の影響を下げ正の影響の拡大につながる企業の事業活動を支えるための投融資の実行	NatureTech・スタートアップ等への出資	BNP Paribas	フランス	同社は、ネイチャーテックを変革を促す重要な手段であると考え、スタートアップに対する支援を実施。 Blue Alliance Marine Protected Areas（NGO）とともに、海洋保護区内のサンゴ礁保全を通じてブルーエコノミー強化に資する企業へ初期資金を供与する「ブルー・ファイナンス」を立ち上げた。	https://group.bnpparibas/en/news/nature-tech-financing-concrete-solutions-to-jackle-nature-loss-and-restore-biodiversity
22	③自然資本への負の影響を下げ正の影響の拡大につながる企業の事業活動を支えるための投融資の実行	NatureTech・スタートアップ等への出資	三井住友トラスト・インベストメント、SBI新生企業投資	日本	資源枯渇・生物多様性損失・気候変動への対応ニーズの高まりを背景に、日本国内設立の同分野スタートアップに投資する「サーキュラーエコノミー・ネイチャー・ボジティブ1号ファンド」を立ち上げ。 企業や地域と積極連携し投資先を支援することで、循環型システムの構築と自然に根差した変革を通じた豊かな暮らしの実現に貢献することを目指す。	https://www.smtic.jp/news/20250331.html
23	④その他	統合指標の開発	滋賀銀行	日本	総合大学が実施する「生物多様性保全総合指数」の研究開発プロジェクトに、〈公財〉東近江三方よし基金と共に参画。地域の生態系と社会経済の双方に役立つ新たな総合指数の開発を通じて、環境配慮型の金融商品の開発や環境保全活動等、社会・経済での活用を目指す。 現在は1．指標に求められる要件の抽出・設計 ⇒ 2．基盤情報の収集と総合指数の開発 ⇒ 3．経済・社会活動の現場での実証と評価のスタッフで検討を進めている。	https://www.shigagin.com/news/topix/3514

別表 3：ネイチャーファイナンス関連文献集

#	カテゴリ	タイトル	発行元	発行年	概要	リンク
1	現状・課題等に関するレポート	State of Finance for Nature The Big Nature Turnaround Repurposing \$7 trillion to combat nature loss	UNEP FI・ほか	2023年12月	自然に悪影響を及ぼす資金の規模を推計し、リオ目標（気候変動枠組条約（UNFCCC）、生物多様性条約（CBD）、国際砂漠化対処条約（UNCCD））達成のために必要な資金ギャップが2,000億ドルと大きく不足しているNbSの現状と、2030年までの必要資金は現状の3倍必要であることを分析。	https://www.unep.org/resourcess/state-finance-nature-2023
2	現状・課題等に関するレポート	Biodiversity Finance Factbook Biodiversity COP16 Edition	Bloomberg NEF	2024年10月	公的資金（生物多様性関連の政府開発援助等）は前回の評価以降増加しており、一方で環境に有害な補助金の推計も同様に増加。グリーンボンドや生物多様性への便益を提供するカーボンプラットフォームなどの民間金融商品は、過去のピークから発行量は減少し、比較的稳定していることを示す。	https://assets.bbhuh.io/professional/sites/24/Biodiversity-Finance-Factbook-COP16.pdf
3	現状・課題等に関するレポート	Navigating Nature-related Regulations for Banks: Mapping the Policy Landscape	UNEP FI・ほか	2024年12月	自然損失による金融リスクへの対応を中心に、世界の自然関連規制や政策の現状、銀行のグリーン化戦略との関係、政策推進のための主要な課題と具体的な施策を解説。	https://www.unepfi.org/industries/banking/navigating-nature-policy/
4	現状・課題等に関するレポート	Biodiversity Finance Factbook COP30 Edition	Bloomberg NEF	2025年11月	GBF達成に向けた生物多様性ファイナンスの現状・資金ギャップ・優先地域・指標進捗を評価し、COP30での資金動員と政治的意思の強化を提言。生物多様性ファイナンスの資金フローは増加も、環境に有害な取組に対する補助金の拡大でGBF目標に1.3兆ドルの遅れがあることを指摘。	https://assets.bbhuh.io/professional/sites/44/Biodiversity-Finance-Factbook-COP30-Edition.pdf
5	現状・課題等に関するレポート	State of Finance for Nature 2026	UNEP FI	2026年2月	世界の生物多様性、気候、土地回復の目標を達成するためには、NbSの投資額を2030年までに、2023年の2,200億ドルから5,710億ドルに増加させる必要があり、これは世界のGDPのわずか0.5%に相当することを示している。 また、政府や企業が有害な補助金や破壊的な投資を段階的に廃止しつつ、全ての経済分野で高い信頼性を持つ自然を活用した解決策（NbS）を拡大するための実践的な枠組みである「Nature Transition X-Curve」を紹介。	https://www.unep.org/resourcess/state-finance-nature-2026
6	取組・手法等に関するガイダンス	INVESTING IN NATURE:FINANCING CONSERVATION AND NATURE-BASED SOLUTIONS A PRACTICAL GUIDE FOR EUROPE	EIB （欧州投資銀行）	2019年12月	自然保全および自然を活用した解決策の意義とビジネスへの利点、資金調達のステップ、具体的な事例、欧州投資銀行の自然資本融資制度（NCFF）を含む支援策を体系的に解説。	https://www.eib.org/files/pj/ncff-invest-nature-report-en.pdf
7	取組・手法等に関するガイダンス	THE EQUATOR PRINCIPLES （エクエーター原則/赤道原則 EP4）	Equator Principles	2020年7月 （第4版）	赤道原則が適用されるプロジェクトの範囲、アプローチ、プロジェクト融資にあたり金融機関が遵守すべき10の原則（環境・社会デューデリジェンス基準、モニタリングのフレーム ※生物多様性の要素を含む）を示す。	https://equator-principles.com/app/uploads/EP4_Japanese.pdf
8	取組・手法等に関するガイダンス	Mobilizing Private Finance for Nature	World Bank Group	2020年9月	民間資金を生物多様性保全に動員するため、環境財政改革やデータ整備、TNFD設立、Nature Action 100創設、生物多様性基金や触媒的・譲許的資金提供など5つの主要アプローチを提言。	https://documents1.worldbank.org/curated/en/099090423115515036/pdf/P170336065889807e0bf0405101cb127610.pdf
9	取組・手法等に関するガイダンス	Stepping Up on Biodiversity: What the Kunming-Montreal Global Biodiversity Framework means for responsible investors	UNEP FI・ほか	2023年4月	GBFの概要、2050年までの4つの長期目標と2030年までの23の行動ターゲット、投資家が取るべき具体的なアクション（投資判断への生物多様性統合、革新的金融ソリューションへの投資、情報開示）を示す。	https://www.unepfi.org/industries/investment/stepping-up-on-biodiversity/
10	取組・手法等に関するガイダンス	Banking on nature: What the Kunming-Montreal Global Biodiversity Framework means for responsible banks	UNEP FI	2023年5月	GBF目標達成に向け、銀行が生物多様性リスク・機会の管理、金融フローの整合、情報開示などを通じて、2030年までに自然損失の阻止・回復に貢献するための具体的な行動指針を示す。	https://www.unepfi.org/industries/banking/banking-on-nature/
11	取組・手法等に関するガイダンス	PRB Nature Target Setting Guidance	UNEP FI	2023年11月	銀行がGBFの目標・ターゲットに沿って、自然関連リスク・影響・機会の評価、優先セクターの特定、実践的なターゲット設定、報告・開示を行うための具体的なステップを体系的に示す。	https://www.unepfi.org/industries/banking/nature-target-setting-guidance/#:~:text=Authored%20by%20the%20UNEP%20FI%20with%20the%20support%20of%20the%20Kunming-Montreal%20Global%20Biodiversity%20Framework%20%28GBF%29
12	取組・手法等に関するガイダンス	生物多様性ポリシーの策定 アセット・オーナー・インベストメント・マネージャー向け テクニカルガイド	PRI・ほか	2024年3月	生物多様性の損失が投資家に与えるリスクと機会を明示し、生物多様性ポリシー策定のための目標設定、戦略、組織的アプローチ、モニタリング・開示方法などの主要要素を具体的に解説。	https://public.unpri.org/download?ac=23104
13	取組・手法等に関するガイダンス	責任投資の入門ガイド： アセット・オーナー向け生物多様性入門ガイド	PRI・ほか	2024年3月	アセット・オーナーが生物多様性の課題に対して取るべき具体的なプロセスを示し、その中で実行可能なアクション、利用可能なリソース、運用会社に質問すべき基本的な事項等を提示。	https://public.unpri.org/download?ac=21651
14	取組・手法等に関するガイダンス	Nature Action 100 Company Benchmark Methodology	Nature Action 100	2024年9月	Nature Action 100 Company Benchmarkの指標・評価基準・評価方法を体系的に解説し、企業の自然関連リスク・機会・目標・実施・ガバナンス・エンゲージメントの進捗を評価・公開する枠組みを提示。	https://www.natureaction100.org/media/2024/10/Nature-Action-100-Company-Benchmark-Methodology-October-2024.pdf
15	取組・手法等に関するガイダンス	Biodiversity Footprinting Standard: Financed Impact	PABF	2024年10月	モデルベースの生物多様性フットプリント手法を用いて、金融機関が融資・投資活動による生物多様性への影響を定量的に評価・管理・報告するためのTNFD等の既存のアプローチと整合したガイダンス、要件、推奨事項を体系的に示す。	https://pba4global.com/files/downloads/PBAF_biodiversity_footprinting_standard_financed_impact2024.pdf
16	取組・手法等に関するガイダンス	Insuring a resilient nature-positive future: Global guide for insurers on setting priority actions for nature	UNEP FI・ほか	2024年12月	保険業界が自然に対する責任を果たすための具体的な実践的な行動を示す。保険バリューチェーン全体で自然関連の依存・インパクト・リスク・機会に対応する必要性を強調し、生命・損害保険の両方における行動例を提示。	https://www.unepfi.org/industries/insurance/insuring-a-resilient-nature-positive-future-global-guide-for-insurers-on-setting-priority-actions-for-nature/#:~:text=This%20initial%20output%20by%20the%20working%20group%20provides%20insurers%20in%20addressing%20nature-related%20issues%20in%20underwriting%20portfolios
17	取組・手法等に関するガイダンス	Financial sector guidebook on nature-based solutions investment	WRI	2025年6月	金融機関がNbS投資を戦略的に組み込むための包括的な枠組みを提示。既存のポートフォリオのリスクの軽減、持続可能な財務成長の支援、新興市場と革新的な資金調達モデルへの活用といった3つの戦略的領域に渡って、金融機関がNbSをどのように活用できるかを概説。	https://farm-d.org/wp-content/uploads/2025/06/financial-sector-guidebook-nature-based-solutions.pdf
18	取組・手法等に関するガイダンス	Sustainable Bonds for Nature: A Practitioner's Guide	ICMA	2025年6月	グリーンボンド原則等の国際基準に基づき、自然関連プロジェクトへの資金調達やインパクト報告、KPI設定等、ネイチャー・テーマボンドの具体的な設計・運用方法を体系的に解説。	https://www.icmagroup.org/assets/documents/Sustainable-finance/2025-updates/Sustainable-Bonds-for-Nature-A-Practitioners-Guide-June-2025.pdf